

1. 第1回全体会でのまちづくりのアイデア等

コミュニティを大切にする

- ・気軽に近所の人が立ち寄れる場所を作る
- ・今庄にある物、文化を地域資産として活用するための住民運動をおこす
- ・景観をこわせずに、子どもたちの遊び場も作って欲しい

景観を議論する前に
この街のあり方を話し合うことが大切

どのような「街」
にすると良いか？

危機感がありながら、一歩前へ出ないことが多い

将来ビジョンが見えないことが、地域住民の大きなテーマ

みんなで将来ビジョンを考えてみよう！

このPJを機会に参加型PJを推進すると良い

その他のアイデア

- ・立橋がつかえそう（視点として）
- ・日曜になるとよく鉄道マニアの方がカメラを構えている。マニアの方が休憩できるスペースを！
- ・小さな町であることを活かし、高齢でも気軽に散策できるルートを作る
- ・写真や俳句などを趣味とする人の集まる街になるはず
- ・今庄を江戸時代の本陣であったことをテーマにして売り込む
- ・今庄地区にある駅、高速のインターチェンジ毎に、案内様式を設置する
- ・シンボルスポットがあると良い
- ・水路の中を歩きたい

2. 景観部会の役割・方向性等

- ・地元の人が快適に暮らせることが一番。
- ・住みやすく、かつ、外部の人でも満足できるまち、人のぬくもりが感じられるまちにしたい。
- ・将来の子供たちのために今庄を守る。観光は重要だが、生活できるまちにすべき。
- ・歴史認識が1つのキーワード。現にあるポテンシャルに付加価値を付ける。
- ・放っておくと朽ち果てる。新しい歴史を作っていく視点も重要。
- ・観光で短期的に人が来ることが目的ではなく、長い目で見るのが重要。
- ・住民活動が活発化すれば、観光にもつながる。

■ルール化について

- ・建てるよりも、守ることが重要（昔の町並みを復元する訳ではなく、最低限のことを守る）。
- ・家を建てる・直す時に、相談できる人が必要。
- ・ルール化は住民流出（特に若者）の要因にもなる恐れがある。
- ・意気込みや想いが伝われば、ルールが受け入れられる可能性はある。

4. 景観部会の具体的な取り組みについて

(1) 街並み・民家の景観

- 民家のデザインブックの整理(これから家を建てる人や直す人の参考書。木製に似た建具等も情報発信)
- 空き地でのモデル住宅の建築(街道での暮らしのイメージを情報発信。若物が今庄で暮らすためにも重要)

(2) 電線類の地中化

- ・板取宿も数十年前に実施したが、整備したほうが景観は良くなる。その一方で、ノスタルジックな雰囲気を感じられる場所など、電柱があったほうが良い雰囲気もある。
- ・こだわりは必要だが、統一しすぎは良くない(熊川宿は非日常がうまく演出されていない)。味がある景観をつくらないといけない。
- ・一部の区間で良いが、アスファルトの改善・石畳整備も合わせて検討。

(3) 空き地・空き家の取り組み

- 新羅神社前の空き地は、花や畑、広場などほっとする空間を提案
- 多目的に活用できる広場
- 今庄宿全体での駐車場の位置の検討
- 日本の伝統に繋がる手仕事関係の人の移住・空き家活用(今庄で作っているもの・人が少ない。新しい文化を生み出さないと観光地にはならない)

(4) 駅前広場のデザイン

- ・現状は無頓着すぎる。常夜燈の看板の上に万国旗が飾ってある。
- ・歴史的な雰囲気と異なっても良い。むしろ新しい雰囲気のほうが良い。少しずつ新しいものが見える、変化し続けるまちのほうが魅力的。
- ・給水塔の横にD51があり、数m動いたり、時報代わりに汽笛がなると最高。

(5) ソフト的な取り組み

- 登り梁構造など、雪国の民家の特徴を説明してあげる人(ここはかなり重要)
- これから家を建てる人の相談にのってあげる窓口機能
- 雪の演出(雪囲いは観光客の関心が高い。雪をどのようにキレイに見せるかも考えていく。ライトアップは効果的。駅前に築山があっても良い。)
- おもてなしの心(結局は人が重要。コンセプト・軸をしっかりと持ちつつ、こだわりのある対応ができると良い)

(6) その他

- ・花が少ない。空き地にコスモスを植えても良い。リピーターにとって魅力のある何かが必要。
- ・イメージーションをかき立てるものがないといけない。街道に新しいものがあったても良い。
- ・三方五湖を背景に梅をうっているおばあちゃんは大人気。この景観をどのように作るかが大事。可能性はある。

3. まちあるきを踏まえたベストビューポイント・気になったところ

- ①新羅神社前の空き地、路地を抜けてパッと広場が広がる景観
- ②国道365から見える稲荷神社の鳥居、白髭神社の参道
- ③観音堂から見下ろした今庄の街並み
- ④今庄宿の民家の特徴である袖卯建(54戸)、ファサードの窓格子
- ⑤つるやの2階の欄干(観光客にも人気)
- ⑥駅前のタクシーから旧鯖江縫製の方向の景観、前田川
- ⑦棟岳寺周辺の寺町の路地(あの雰囲気のままで良いので残したい)
- ⑧板塀の蔵、朽ち果てた感じの蔵、石垣等のナチュラルな感じ
- ⑨看板(見えなくなっているもの、旧今庄町のもの。駅前に欲しい)
- ⑩防犯用の照明(通学路などに設置要望あり。看板と一緒にデザイン)
- ⑪エアコンの室外機(目隠しの配慮)
- ⑫屋号の看板(いわれやルーツまで調べるとおもしろい)
- ⑬路地(昔の遊び場。一部でも川を見せられると良い。魚がいればなお良い)
- ⑭ベンチ(観光客にとっても所々にベンチがあると良い)
- ⑮空き地の景観(板塀があれば繋がりもできる。畑としての活用も考えられる)
- ⑯電線・電柱(地中化・後ろ側へまわす対策は全部できないし、一部でも良い)
- ⑰羽根曾踊りの紙人形(井口さんのギャラリー。観光客が見れると良い)



1. 第1回全体会でのもちづくりのアイデア等

雪対策をプラスに考える何かがないのか？

- ・地域の住民の意識が低い
- ・町民の協力が悪い
- ・地域の協力が少ない
- ・行事に若者の参加が少ない

今庄宿とは何か？という定義の共有がない

コンセプト

- ・サービスのコンセプトを明確にし、軸を決めてからアイデア出しをする
- ・0753の里
- ・地域の文化に基づいたコンセプトを策定する
- ・宿場（道・旅）を活かす

雰囲気大切に

- ・古いものを大事に 今あるものを再発見
- ・古い建物を（外観）を残しつつ静かな大人のほんわりした時間を満喫できる街並み
- ・今庄宿に今も息づく神社の境内のような雰囲気を保つ。もっと表現する

お店・商品・催しの工夫を！

- ・魅力的なお店
- ・各商店が集合して販売する場所
- ・売り物にできない野菜を安く売る市場、町の特産品もフリーマーケット
- ・FFを、ビリヤードや卓球などの場所に！
- ・お祭りでお店を出す

- ・商品力を高める
- ・街を散策するときに、持ち歩ける食べ物開発

- ・体験を売る
- ・イベントにボランティアを集める企画

自分でやろう！

- ・情報発信
- ・自分でやれることをやる
- ・低コストで、個人レベルでやれることから

みんなでやろう！

- ・一つの目標に向かっての町民の協力
- ・同じ世代に声をかけて一緒にやる

具体的なアイデア

アート

- ・アートを呼び寄せる
- ・空き家を使って若いアーティスト（音楽・絵画・彫刻）

酒・酒蔵

- ・四つの酒蔵の新酒会
- ・酒蔵リッパ→コミュニケーションの場にできないか？

MAP

- ・寺・神社 MAP
- ・パワースポット MAP
- ・不思議なところ MAP
- ・ロード（商店）MAP

空家等

- ・空家、空き地の活用
- ・駅前に施設
- ・空き家を使つての食事会や演奏会
- ・空き家改修（床張ります）
- ・一年中楽しめる場所にする

集う！

- ・住民自身がつどう場所、休憩場所をつくる（空き家を利用してよい）
- ・ランチ、寺社カフェ（おにぎりとお茶でたむろする）

コラボ

- ・周辺地区住民の交流を深める
- ・南条・河野との連携、武生とか敦賀との連携
- ・食べ物のコラボ
- ・建築コラボ

人にやさしく（旅人と住民の交流）

観光客が笑顔でいてくれる町！（町民・子供たち）

カフェができて、いろんな人の動きが変わった。今庄のまちをもっと見直したいという人も多くなった。

マニアックでディープな世界を求めてくるような人が多い。

一般のお客でも酒蔵見学は可能（大口だと観光協会やボランティア協会から連絡がある）

昔より、滋賀県、愛知県、三重県など、県外のお客が本当に多い。

入りやすい雰囲気づくりが重要（京藤甚五郎家や明治殿の中を見たいニーズはある）

3. 具体的な取り組みについて

(1) 進め方・方向性

- ・住民のために価値を創造する。子どもの記憶に残るまちづくり。
- ・住民参加が一番大切。住民への話しかけが大切。
- ・住民はみんな同じ思い。一歩踏み出せばもっと良くなる。

(2) 今庄宿に欲しいお店等

- 小売店だけでなく、ギャラリーやオフィス、サービス全般
- できるだけ、空き家を活用（空家対策部会と連携）
- 旧旅籠若狭屋のような人が寄りやすい喫茶店
- 今庄宿の中にそば道場のような施設
- ギャラリーと週末の小さなイベント（小八郎も県外客が多い）
- インフォメーションセンター（農協を活用）
- TSUTAYA
- アーティストのアトリエ+住居（特に若い年代の様々な分野のデザイナーが空き家に入って住み、活動。人口増に繋げる。奥さんの働く場の提供など、移住施策と一体的に推進）

(3) ソフト的な取り組み

- 散策ルートの提案（街道で見てもらうポイントを住民から聞いて整理。伝えにくい抽象的な今庄の良いところをポイントにする。住民みんなが説明できるように住民の人にも協力してもらう）
- 酒蔵見学+酒に合う料理の提供など、造り酒屋と旅館の連携した取り組み（今ある資源で対応。食べる場所、食べる時期へのこだわり。）
- 来訪者との会話・声掛け
- パンフレットの作成・配布（今あるものの改善）
- 来訪者へのアンケート調査（街道浪漫の時）
- 子ども駆け込み 110 番のような共通の取り組み（タッピーくんも連携）
- OFF や旧農協を共同出資で店舗等に活用
- お店の店舗を使ってもらう仕組みづくり・仕掛けづくり（お店の入口付近に和雑貨等を置くなど、入りやすい雰囲気づくり）
- 間伐材でベンチやテーブルを作って店先に置く（子ども会や小学校と連携することが大切）
- 地域みんなで楽しむこと（楽しんでいる雰囲気は来訪者に伝わる）
- 自分でできることから実践

2. 資源の再確認・再評価、取り組みのアイデア

- ・羽根曾踊り、街道浪漫、そば祭りなど、今あるものの活用（歴史や価値を伝える）
- ・ハイキングコースの活用（藤倉山は福井の山百選になってから、多くの人が来ている。グリーンツーリズムは集客の可能性はある）
- ・雪もプラスに考える（雪がなければ今庄ではない。風土に合った地場産業を活かす）
- ・テーブルやいすを古い建物の前に置くような心遣い
- ・住民自身が良いものを再認識して情報発信（雪が降るところ、自然のキレイなところなど、良いところを、インターネット等で情報発信）
- ・外から来た人に良いところを発見してもらう仕組み
- ・子どもを巻き込みながら、人を集める、寄せるアイデア
- ・空き家・空き地の活用提案

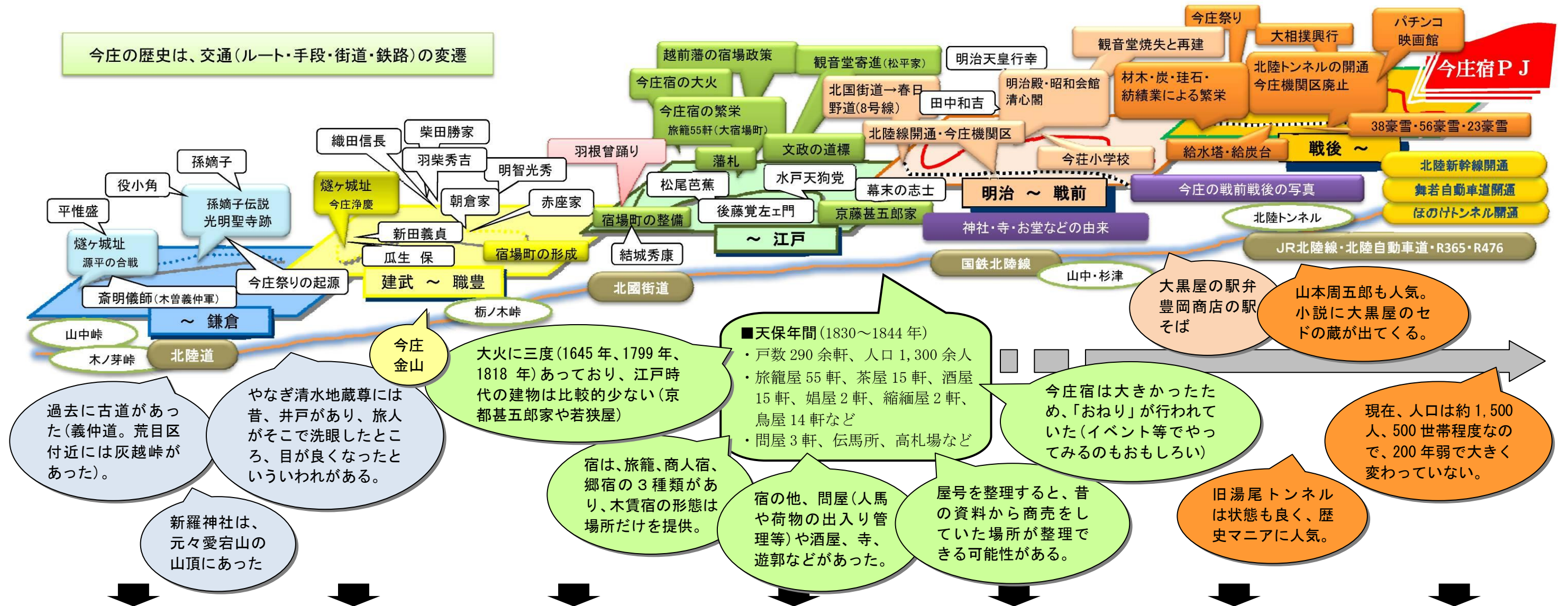
■人口問題について

- ・子どもの誕生を町全体で祝福
- ・親の意識改革、次の世代への継承
- ・まちづくりに対する家庭での会話
- ・子どもが育ちやすい環境づくり
- ・住むところとしての魅力づくり
- ・全国の中での知名度を向上
- ・若い人を受け入れる体制づくり
- ・子どもの滞在を定住のきっかけにする
- ・田舎ビジネスの創出

■その他のアイデア

- ・肉屋から中村八百屋までのメインストリートが歩きにくい。高齢者には厳しい。車では気付かない。
- ・郵便局や銀行での昔の写真店（地元の住民はうれしい）
- ・愛宕山へのハイキングコース
- ・仲町や寺町などの昔の町名の復活、路地に名前を付けて特徴的な空間づくり
- ・駅前へのD51の移設、JRの給水塔や埋もれているターンテーブルと連携して活用（タッピーくんとも連携）
- ・商工会との連携、河野や南条、旧今庄町の他の地区との連携

今庄宿が整備された江戸時代以降の歴史を中心として基本的な歴史的事実やエピソードを整理する(江戸時代以前の重要なポイントも、適宜、整理)



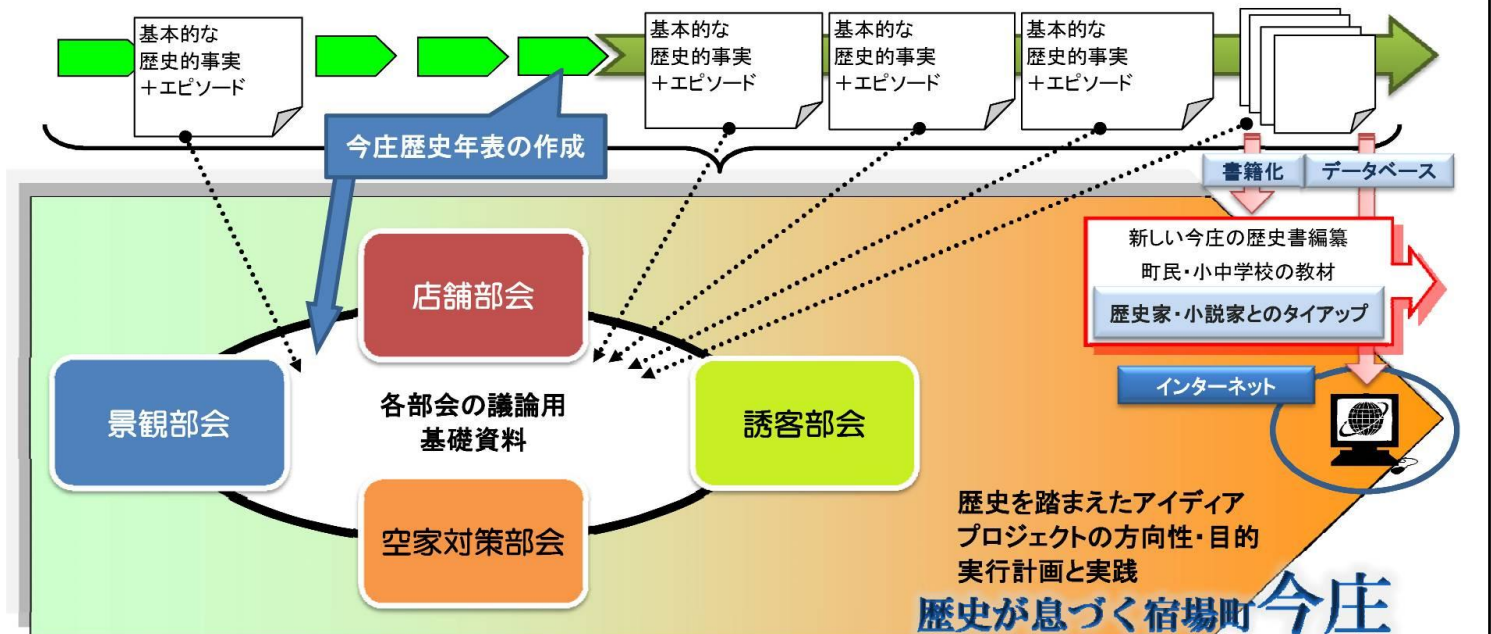
■歴史部会の目的(案)

- ①今庄の歴史文化を踏まえたまちづくり
(歴史遺産認定運動(文化財指定外の写真・物品等)、町民歴史講座等による歴史認識の向上など)
- ②今庄の歴史文化資料を各部会へ提供
(空き家を活用した歴史博物館など)
- ③歴史文化データベースの構築
(古老からの歴史的出来事の聴取、古地図の作成)
- ④今庄の歴史文化書の作成
(紙芝居の製作などにより、子どもたちの教科書として活用等)
- ⑤歴史文化遺産の保存・継承
(羽根曾踊りなどの風俗、民俗、歳時記や年中行事、茶飯などの食文化(酒文化)、民話など)

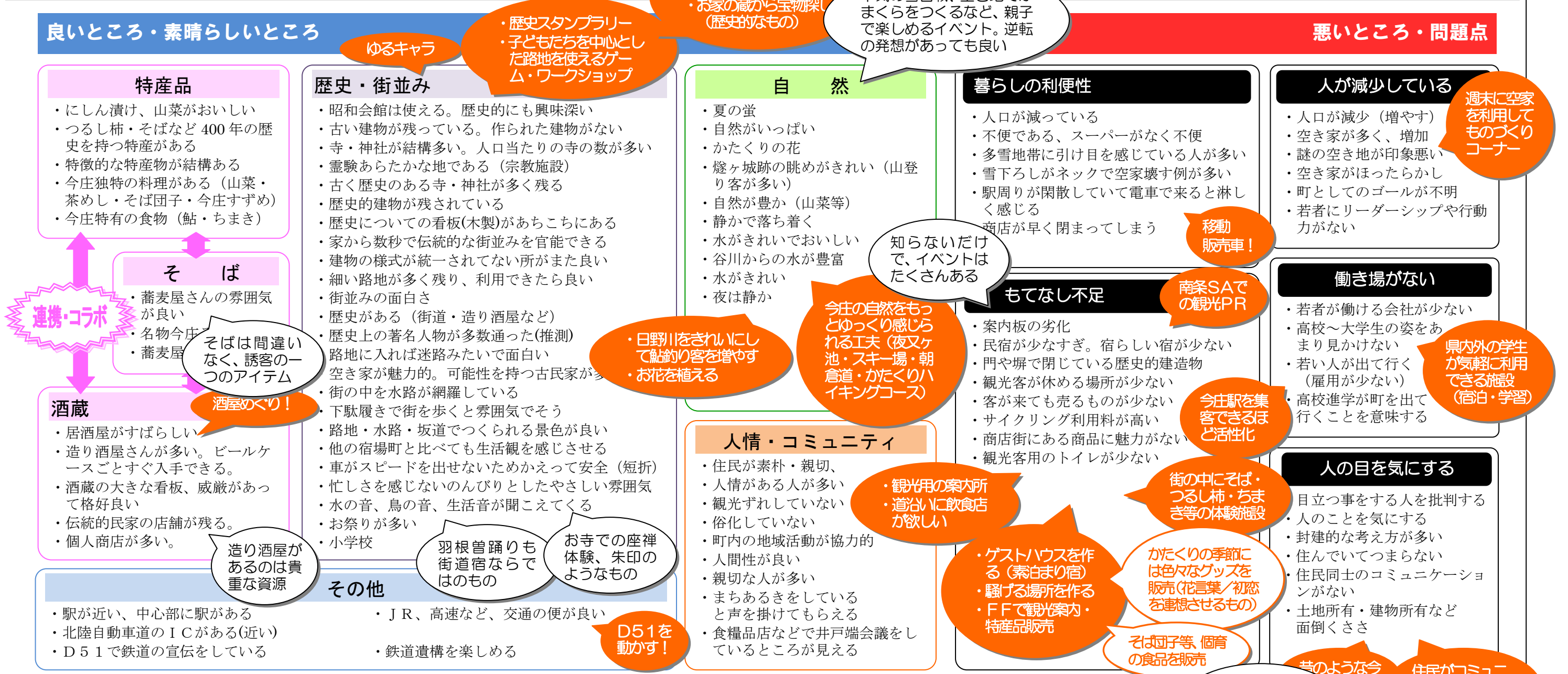
おもてなしの知識をみんなで勉強する

屋号を整理しておかないと、そうした歴史もなくなってしまう

茶飯はいろんな地区にあるが、豆が入ったものは今庄だけ



1. 第1回全体会でのまちづくりのアイデア等



2. 誘客の方向性

- 観光バスでたくさんの観光客が来るよりも、ひっそりと、質の高い誘客
- なんとなくノスタルジーを感じるなど、今庄宿の良いところを大切にしたい。変に触りすぎないほうが良い。
- 池田町のように、地産地消が良い。ありのままで勝負したほうが魅力的。
- 空き家を使った民宿、特に1日貸しのタイプが良い(食事は仕出し屋で賄い、お風呂はサイクリングターミナル、掃除は地域のおばちゃんといったような連携)
- いろんな活動のベースキャンプとして空き家を活用(飲み物や食べ物等のお世話をするなどしながら宿泊に繋げる)
- 酒(利き酒や雪見酒)やそばを泊まりたくなる魅力として活用(通過型を滞在型にする魅力づくり)
- スキー客の宿泊者もいる。今あるブランド力を高める
- 米、吊るし柿、そば、酒、ジビエなど、食は豊か。山の幸、海の幸(河野との連携)が豊富。こってりしたサービスで、観光客が帰りたくても帰れなくするような仕組み。ほうば飯、里芋など、みんなが持ち寄る仕組み
- 大々的なハード整備というよりも、必要なソフトをするためのハード整備に限定

3. お勧めの誘客プロジェクト

- 季節ごとの体験(春はカタクリの花や山菜、夏は鮎、秋は吊るし柿や紅葉(愛宕山)、冬は雪や酒蔵など)+インターネットでの割引
- 水車で米踏み
- 民宿で子どもたち(修学旅行等)に昔語り
- 空き家で山菜料理の提供(もうけをあまり考えず、お年寄りに協力してもらう)
- 水戸天狗党や芭蕉の通った道の案内
- 観光客向けのリアカーをひいて、運転手がいろいろと説明する取り組み
- 各県の観光協会と連携したPR、J Rとの連携・セットメニュー
- タクシーやバスなどでの広告宣伝、全国的なPR
- 住民みんながもてなしの仕方を勉強する機会づくり
- 若い観光客向けには食べ歩きできる商品づくりや環境づくり
- そば体験ができる道場が宿場の中に欲しい
- 駅でフリーマーケット(野菜や吊るし柿の販売)
- 魅力的なガイドブックも必要

1. まちあるきによる空き家・空き地の確認(6/23)

- ・約40の空き家、約20の空き地を確認。昔の使われ方やいわれ等を整理。

2. 気になる具体的な空き家・空き地

- ①アミー(少し工夫するだけでうまく使える可能性がある。中はそのまま)
- ②FF(電車から降りた時に目につく。くつろげるところが欲しい)
- ③山田氏の空き家(今すぐにでも使えそう。外観も非常に今庄の町家らしい)
- ④朝倉氏の空き家(本陣として使っていた歴史あり。旅籠らしさが残る)
- ⑤斎藤家(歴史的な資料を公開する場所等に使えると良い)
- ⑥西之町の空き家2~3件(空き家、空き地、路地を一体的にデザイン提案)
- ⑦柳周辺の空き地(子どもの遊び場、家族でくつろぐ場・ブックカフェなど)
- ⑧酒蔵近くの空き家(ちょっとしたバーみたいな活用)
- ⑨そば屋+体験の場(街道にあること自体に意味がある)
- ⑩農協(特産品を販売・購入できる場所、観光客と地元が交流できる場所)
- ⑪空き地の畑としての活用(+空家を宿泊場所にして、クライガルテンに)
- ⑫空家をグループホームとして活用(いきいきしたコミュニティづくり)



「このままが良い、飾らないほうが良い」という意見が圧倒的に多い

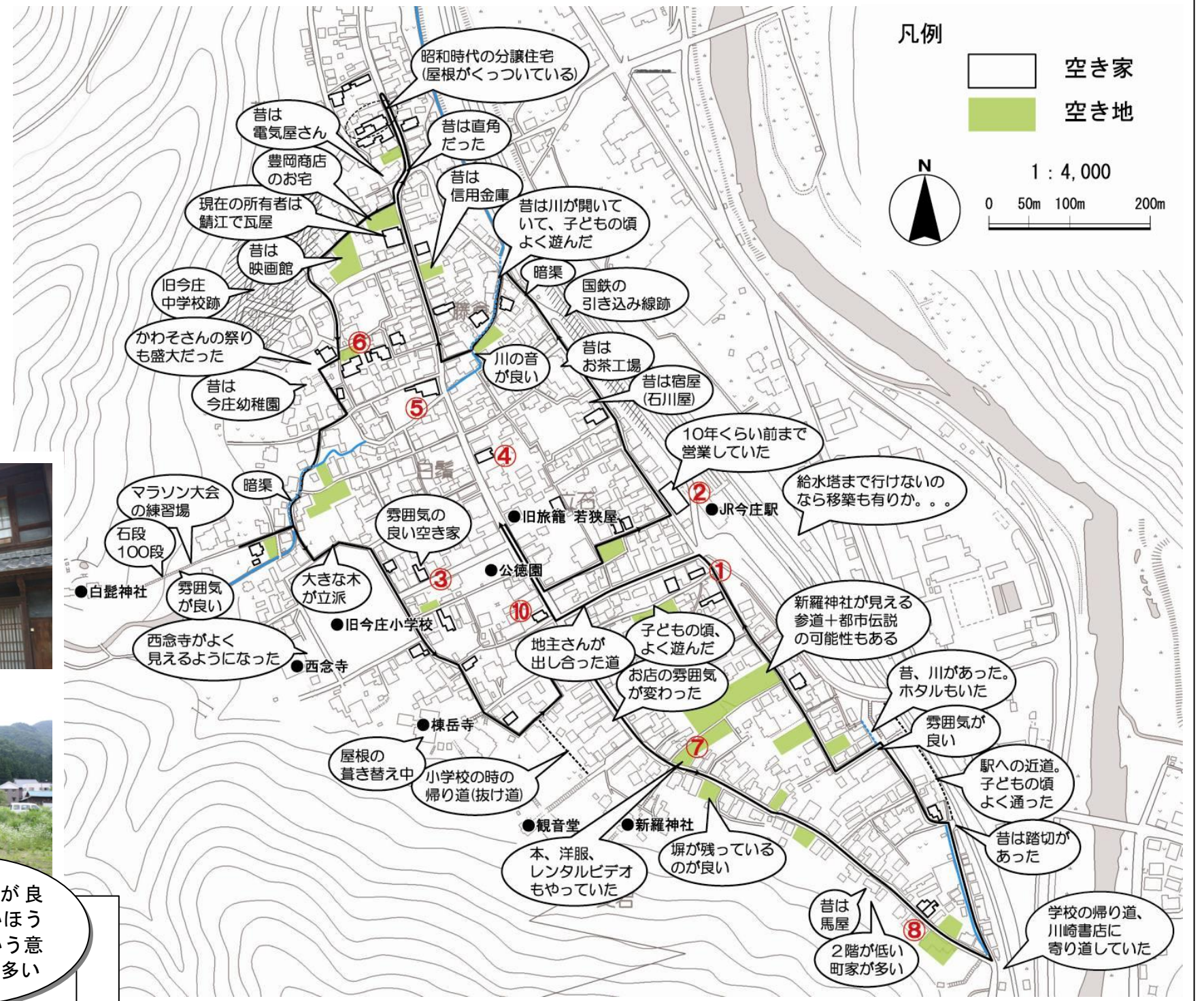
3. 空き家・空き地の活用の進め方について

(1) 旧旅籠 若狭屋の活用事例(別紙参照)

- ・カフェ「木ノ芽」には約2,500人の方が来訪(ハイカーの方はあまり利用していない)

(2) 空き家・空き地の活用に向けて

- ・今すぐできること、中長期にすることの整理(待ってられない状況もある)
- ・所有者意向の整理(借りられかどうかの確認)、他の部会との連携を見据えたリスト化
- ・今庄宿プロジェクトの情報発信(町外の所有者)
- ・空き家化の予防(高齢単身世帯の増加)
- ・地域住民の受け入れに関する意向の確認
- ・自分で作る空き家など、多様な選択肢を準備
- ・空き家でモデル住宅を建築(街道暮らしの提案)
- ・子育て世帯の受け入れ(子どもの増加が不可欠)
- ・今庄宿全体のまちなみイメージ、土地利用のゾーニングの検討・共有



4. 空家対策部会の具体的な取組(案)

(1) 今すぐにあること(案)

- ①空き家・空き地の所有者のこと、所有者の思い等の整理(リスト化)
- ②「空き家について考えてみませんか?」というチラシの作成・配布(壊す前に相談して頂くような、段階的なPR)
- ③空き家を使ったフリーマーケットの開催や情報発信(目に見えるアクションを具体的に実践)
- ④今後、空き家になる可能性がある方々との地道な話し合い

(2) 中長期的に取り組むこと(案)

- ①空き家見学バスツアー(今庄宿でもできる)
- ②長期的なビジョンの明確化
- ③今庄暮らしの色、住むところとしての魅力を高める

街道浪漫の時に、住まい全般に関する相談コーナーを開催するのも良い

■各部会の取り組みの調整(これまでの意見交換の概要)

	景観部会へ	店舗部会へ	歴史部会へ	誘客部会へ	空家対策部会へ
景観部会から	1 ページ参照	○今庄宿民家の特徴である袖卯建(54 戸)、ファサードの窓格子等、ふさわしいお店の店構えの検討 ○観光客にとっても所々にベンチがあると良い。 ○民芸品などを買うところをよく聞かれる。	○屋号を看板として掲げる取り組み(できれば、いわれやルーツまでいきたい) ○昔よく遊んでいた路地を改めて評価し、一部でも川を見せられると良い。 ○民話を紙芝居として伝承。	○給水塔の横へD 5 1 を移設し、数 m 動かしたり、時報代わりに汽笛を鳴らす。 ○観光客にとっても所々にベンチがあると良い。 ○民芸品などを買うところをよく聞かれる。	○新羅神社前の空き地周辺は花や畑、広場などほっとする空間を提案 ○空き地の景観づくり(板塀等) ○多目的に活用できる広場として活用 ○今庄宿全体で駐車場位置を検討 ○手仕事関係の人を受け入れ ○空き地にモデル住宅を建築
店舗部会から	○テーブルやいすを古い建物の前に置くような心遣い ○仲町や寺町などの昔の町名の復活や、路地に名前を付けて特徴的な空間づくり	2 ページ参照	○今あるものの歴史や価値を観光客に伝える ○町民に歴史や文化を伝える ○若い人から年配の方までたくさんいる歴史マニアをどのように受け入れるかが肝要。 ○仲町や寺町などの昔の町名の復活や、路地に名前を付けて特徴的な空間づくり ○埋もれているターンテーブルも、S L の移設と連携して活用	○子どもを巻き込み、人を集める ○全今庄の田舎を情報発信 ○住民自身が良いものを再認識して情報発信+来訪者に良いところを発見してもらう仕組み ○雪もプラスに考えて活用 ○グリーンツーリズム ○カフェができて、人の動きが変化 ○マニアックでディープな世界を求めてくる人が多い。 ○来訪者へのアンケート調査	○「若狭屋」が身近な成功事例。上、中、下くらいで人が寄りやすい喫茶店などがあると良い。 ○ギャラリー+週末の小さなイベント ○共同出資で FF や農協を店舗等(インフォメーションセンター)に活用 ○アーティストのアトリエとしての活用(人口増加にも繋がる) ○空き家・空き地はこうしたほうが良いなどの提案をしたら良い。
歴史部会から	○つるやの復活 ○スローな生活に憧れている人も多く、街並み散策+αで魅力を発信 ○住民が説明できるのがベスト。おもてなしの知識をみんなで勉強	○屋号や商売をしていた場所を基礎資料として活用 ○豆が入った茶飯は、今庄だけ ○つるやの復活 ○住民が説明できるのがベスト。おもてなしの知識をみんなで勉強 ○昔、せんべい屋もあった。	3 ページ参照	○今庄宿で行われていた「おねり」をイベント等で再現。 ○スローな生活に憧れている人も多く、街並み散策+αで魅力を発信 ○住民が説明できるのがベスト。おもてなしの知識をみんなで勉強	※6/23 まちあるきまとめ参照。 ○現在の時代、これからの時代の宿場町として、滞在型の観光も何とか形にしたほうが良い。新しい時代の道や旅に興味がある人も多い。若い人でゲストハウスをやりたい人を募集する手もある。
誘客部会から	○藤倉山や鍋倉山から愛宕山に直接行けるルートの改善 ○水戸天狗党や芭蕉の通った道の案内。 ○今庄宿が持っている良いところを大切にする。うす気味悪さやおどろおどろしさが良い。変に触りすぎないほうが良い。 ○今庄の良さは、なんとなくノスタルジーを感じるところ。	○見て楽しめるかわいい小物の店 ○立ち食い・立ち飲みの店、食べ歩きできる環境づくり ○新蕎麦、新酒など産地ならではの価値を最大限に活用 ○地産池消、ありのままで勝負したほうが魅力的。 ○ほうば飯、里芋など、みんなが持ち寄るアイデアも必要 ○八百屋が連携した地場野菜販売	○水戸天狗党や芭蕉の通った道の案内	4 ページ参照	○かまくらなど、親子で楽しめるイベントの場として空き地を活用 ○そば屋・そば打ち体験の場 ○山菜料理等の提供 ○民宿(1 日貸し)のタイプとして空き家を活用(食事は仕出し屋、お風呂はサイクリングターミナル、掃除は地域のおばちゃんと連携) ○空き家を体験やいろんな活動のベースキャンプとして活用
空家対策部会から	○旧町の復活 ○路地の名称・呼び名を付ける ○斎藤家は準文化財など、歴史的資料を公開する場所等として活用 ○西之町では、空き家、空き地、路地を一体的にデザイン提案 ○のれんや、提灯などの灯りの景観 ○土地利用ゾーニングによる移住者の受け入れ	○アミーは少しの工夫で使える。 ○お土産が駅に少ししかなく残念。くつろげる場が欲しい。 ○柳周辺の空き地は、子どもからお年寄りまでが集まれるブックカフェみたいな場として活用 ○造り酒屋の近くの空き家はちょっとしたバーみたいな活用 ○土地利用ゾーニングによる移住者の受け入れ	○旧町の復活 ○路地の名称・呼び名を付ける(旧町間の路地等) ○斎藤家は準文化財など、歴史的資料を公開する場所等として活用	○アミーは少しの工夫で使える。 ○お土産が駅に少ししかなく残念。くつろげる場が欲しい。 ○J R を越える陸橋+カフェ等、街並みや国鉄遺産を眺める場 ○京都駅の大階段のように、若い子がたむろする場 ○農協は、観光客と地元が交流できる場、四季彩のような特産品を販売・購入できる場として活用	5 ページ参照